

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述・計算・論述・描図・選択

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・**変化なし**・増加) 難易 (易化・変化なし・**難化**)

出題の特徴

描図問題が増加した。

その他トピックス

固体地球分野の出題が少なくなった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算 論述 描図	脈動変光星と 連星	地学	計算問題は煩雑なものはない。描図は条件文を読み落とさないこと。論述問題の文字数は少なく、着実に得点したい。	やや難
II	記述 論述 描図 計算	大気・海水の 運動	地学	全体的に比較的出題例の多い問題構成である。	標準
III	記述 論述 計算	地球の歴史	地学	問3の長文論述に時間をかけすぎないように工夫すること。問4(2)はやや難しい。	やや難
IV	選択 論述	地質平面図	地学	フリーハンドであっても断面図を描き、全体の構造を把握すべきである。構造が分かれば各設問はさほど難しくはない。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

相変わらず計算問題、論述問題の比率が非常に高い。解答用紙の解答欄の大きいものが多数ある。学習対策としては、計算・論述に十分時間をかけるべきであり、時間配分にも日頃から十分気をつけたい。200～300字という長文論述問題も出題されたが、100字程度の論述練習を繰り返しておけば、さほど負担を感じないはずだ。